

- 春夏秋冬と人と自然の彩りに恵まれ、
- 子どもたちがまた還ってきたくなるマチにしたい！

砺波庄川

みんなで聞こう！語ろう！

まちづくりセミナー

地域の課題を地域と共に価値に変え、「知らないまち」を「気になるまち」にしていくために、全国各地29自治体の持続可能な地域経済の基盤を作る「まちづくり会社」の実践者を招聘し、全国の事例を学びながら、コミュニティカフェ「SDGS地域共生サロン」（詳細は裏面）等の地域のソフト事業の在り方と、水記念公園の再整備の活かし方について語り合い、住んでよし・訪れてよしのまちになるための秘訣を探ります。

2025

全国の先進事例から学び、

まちづくりを成功に導くヒントが得られます！

8.31 日 13:30~15:00

会場 庄川生涯学習センター2階研修室

定員 40人 (先着)

申込 Tel. 0763-77-4315

内容 第1部

講演会 気になるまちになるには？

～子育て・地域交流・まちづくりのはじめ方～

講師：FoundingBase 坂和 貴之 氏

第2部

パネルディスカッション

「庄川地域のまちづくりに必要なことは何か」

FoundingBase マネージャー 坂和 貴之 氏

砺波庄川まちづくり協議会・市議会議員：嶋田 充 氏

〃 水まちづくり委員会：中川 真澄美氏

〃 水まちづくり委員会：織田 淳子氏

庄川峡観光協同組合 理事長 坂井 彦就 氏

モデレーター：北陸博報堂 徳田 周太



講師

株式会社FoundingBase
坂和 貴之 / Takayuki Sakawa

1990年生まれ。東京出身。

2014年 株式会社FOUNDINGBASEの創業から携わり全国各地の自治体に入り込みながらまちづくりの実践を続け、現在にいたる。

2022年4月 パートナーコンサルティンググループマネージャー就任。まちづくりにかかる課題整理から地域に寄り添った提案と伴走支援を実施。

お問合せ先：Tel. 0763-77-4315（砺波庄川まちづくり協議会）

※本事業は持続可能な魅力ある田園地域創出実証実験事業(砺波市庄川地域)として、富山県からの委託を受けて実施するものです。

庄川は、子どもがいなくなる町になる可能性に直面しています。

庄川地域の人口は急激に減少し、2050年頃には子どもがいなくなる町になる可能性があります。また、今の子どもたちは、インターネットで世界中の情報にアクセスできる時代を生きています。人口の偏在化に伴う地域間格差と、地域間競争は激化しており、閉じた町は疲弊し、未来にむけた人と地域の在り方が求められています。

次の世代に迷惑をかけないために、もっと多くの人と一緒に

コミュニティカフェ「SDGS地域共生サロン」は、2024年度に、砺波庄川まちづくり協議会で新たに、30～50代の責任世代が中心となった「未来創造ビジョン策定検討会（富山県伴走支援）」で、まとめた3つのアクションプランのひとつです。

昨年専門家による勉強会で、庄川地域には、「生態系の多様性」「子どもファースト」として自然と共生できる住みよいまちの魅力があることが分かりました。また、水と食の安全保障への取り組みとしても発信し、子育てに選ばれるだけでなく、川サミット、スローシティなどの都市交流も含めて、地域の価値とネットワークを高めていくことが大切であることも学びました。

現在は、親子ワークショップなど小さな一歩を踏み出しました。今後は、より多くの人と一緒に、暮らしを楽しむ・良くする一歩一歩を積み重ねていきたいと考えています。



2024年度の検討会の様子



6月開催した「庄川子ども商店」の様子

関係人口を増やすために、まちづくりをプロジェクト化させていく

そのためにも、試験的に開始した子育て・地域交流・まちづくりの場「SDGs地域共生サロン」の継続性への見直しを立てたいと考えています。今年度も富山県の伴走支援を受けながら、コミュニティカフェにおける生業づくりと、関係人口を増やしていく求心力の作り方を学び、より多くの人と関わり、子育て・地域交流・まちづくりを活性化させるために、ワクワクできるまちづくりを進める「プロジェクト」の立ち上げを今年度中にスタートしていく計画です

住みたいマチ・訪れたいマチへ

ある地域の方は人は、合口ダム付近から見る砺波嵐山・水辺の景色は原風景で、地元に戻るきっかけになったと教えてくれました。庄川峡の景観は、日本観光地百選にも選ばれた、県定公園にもなっています。富山・金沢からのアクセスもよく、立地的に「住みたい」「訪れたい」と思っただけのポテンシャルがあります。

水記念公園の再整備の検討会でも、水辺の魅力は議論され、現在基本計画にも盛り込まれ、現在段階的な再整備が進行しています。

地元で人気の「道の駅」が観光客からも人気のように、地域の日常は、来訪者にとって非日常の価値があります。また、住民にとっても来訪者とのふれあいは人生を豊かにする刺激です。美しい景観を活かした庄川水記念公園を、日常の暮らしを豊かにする居場所にするには、訪れる人にとっての癒しの場となり、好循環をもたらします。小牧ダムの開発よりもっと昔、奈良時代からの歴史をもち、自然と共生する私たちのまち「砺波庄川」。ぜひ、みんなでワクワクする未来をつくっていきましょう。



水記念公園の再整備イメージ。ふれあいプラザは水資料、図書スペースなどにリニューアルの予定（砺波市庄川水記念公園再整備基本計画より抜粋）